



2005.1

No. 132

毎月5日発行 定価1部10円(組合員の購読料は組合費に含む)  
1996年3月8日第三種郵便物許可

MONTHLY

# れんごう

北海道

<http://www.rengo-hokkaido.gr.jp>

発行

日本労働組合総連合会 北海道連合会

発行責任者

峯 後 樹 雄

〒060-0004 札幌市中央区北4条西12丁目 ほくろビル6F TEL(011)210-0050 center@rengo-hokkaido.gr.jp

謹賀新年

## 2005年 新春アピール



日本労働組合総連合会  
北海道連合会

会長 渡部 俊弘

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年はイラク問題に始まり、春季生活闘争、年金、参議院選挙等々、多忙を極める一年でしたが、多くの方々にお支えいただいたことに感謝申し上げます。

さて、わが国の長期不況の元凶である金融システムは、膨大な税金(公的資金等)を投入して改善が図られてきたところで

すが、昨年末に至り健全性回復の傾向が見える状況と報道されています。順調な経済回復につながることを期待したいものです。

しかし、仮に経済回復が実現した場合においても、格差激しい二極化社会への急傾斜や雇用における質的・量的劣化の拡大、さらには、社会における不安と危険の増大、世界の混迷と紛争の激化...などの改善に直結するものではありません。

これまでの歴史が証明するように、私たちが求める社会の実現は、私たちの力で拓く以外にはありません。連合北海道はこの一年間においても、組織、未組織を問わず働く人々の幅広い連帯のもとに、不条理に対する決然たる闘いを組織し、私たちが求める社会への道を拓きます。

最後に皆様のご多幸とご健勝をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

2005年1月

### 謹んで新春のお慶びを申し上げます

日本労働組合総連合会 北海道連合会(連合北海道)

会長 渡部 俊弘  
会長代行 大場 博  
副会長 工藤 海光  
鳥山 和則  
中井 容  
藤本 司

事務局 長  
副事務局 長  
総務企画局 長  
組織労働局 長

森 渡 澄 男  
部 正 寿  
後 樹 雄  
田 仁  
藤 富 夫  
浦 俊 一  
田 明 廣

政策道民運動局長  
組織拡大センター局長  
女性委員会委員長  
女性委員会事務局長  
青年委員会委員長  
高齢・退職者連合会長

小檜山 秀昭  
桜田 憲治  
石川 邦子  
黒瀬 千秋  
高橋 宏尚  
大西 彰  
他 事務局常駐部一同

# 今年 は 戦後 60 年 それぞれの一言

2005年は戦後60年。あの戦争で失われた数百万の命と引き替えた「平和」は、どこに？

アフガニスタンやイラクに日本の自衛隊が派遣され、いままた危機の時代が来ています。

冷戦終わりがもたらしたのは、「平和」ではなく「新しい戦争の時代」の到来となっていませんか。「戦争のない世界をつくりたい」

新しい時代に向かって、各年代の方の意見をいただきました。

みんなで考えてみませんか。「戦後」を。「平和」を。そして、これからの未来を。

20才・30才・40才・50才代の方はHBCラジオ(99年)世代断絶バラエティ「にちょう YAH YAH YAH!」の4人です。

## 戦後60年を迎えて

田中 さやか



おじいちゃん、おばあちゃんを見て「たくましいなあー」と思うことがよくありませんか？ 冬に上着を着ないで雪投げをしていたり、壊れたものを何でも直せたり。

2005年、二度目の年女を迎えた私は、「戦争」についての知識は少なく、地球上で起こっている争いについても漠然と疑問を感じるしかできません。

そして先進国と言われるようになった日本に生まれ育った私が、この国に対するイメージは「忙しい・お金・自然破壊」。豊かな自然の中で、自然と共に生活してきた人達はおだやかでとてもたくましい。私達世代がそんなおじいちゃん、おばあちゃんになれるのかな？

戦争が終わり、経済発展をとげた日本。これからは「取り戻すこと・守ること」へもっともっと重点を置くべきと感じます。戦争がなくても、精神的な病から一人の戦いを続けている人はとても多く、そんなとき自然が一番の薬だと私は信じています。(札幌市在住)

## 本当の戦後

民野 智恵美



“戦後”という言葉を知ると、私はサハリンで会った一人の女性を思い出します。

96年、サハリン残留邦人慰問民謡公演で、通訳を務めて下さった川端さんです。いつも笑顔の川端さんですが、私達が帰る日、港へ向かうバスの中で川端さんは私に、これまで体験された話を涙ながらに話して下さいました。そして「つらい思いを沢山したけれど、今は幸せに暮らしています。でも、永住権を持って故郷の地を踏まない限り、私の本当の戦後はやってこない」とおっしゃったのです。

終戦から戦後、何も考える事なく使っていた言葉でした。でも私には計り知れない、深く、大きな意味がある事を川端さんが教えて下さいました。

北海道での再会を約束して別れた川端さんの訃報を聞いたのは、永住帰国を目前にした三ヶ月後の事でした。「北海道に帰ったら、皆が集まれるサハリンの家を作りたい」

本当の戦後を楽しみにしていた川端さんの笑顔が浮かんできます。(フリーアナウンサー)

## 戦争って?正義って? 中野 智樹

第二次世界大戦が終わって30年後に僕は生まれた。今29歳。「戦争を知らない子供たち」より更に知らない子供として生きて来た。僕にとって戦争は既に過去のモノであり、歴史の教科書などの文献や祖父の代の体験談、史跡等で間接的に知る以外ないものであった。そんな環境下、僕たちが受けて来た教育によると戦争はただただ「いけない事」であり、完全に「悪い事」だった。

テレビの特撮ヒーローものでは明らかに悪い事をしていてと自覚している悪者が、正義を信じて疑われないヒーローに毎週倒されている。ヒーローものに限らず娯楽時代劇しかり、多くの人は老若男女問わず勧善懲悪が好きなのだと思う。わかりやすい善悪や勝ち負けが肩凝らずに安心して見れるからだろう。

歳を経て自分なりに様々な事を学んで来た今、戦争に対して単にこれだという答えが出なくなって来ている。誰もがヒーローでもなければ悪者でもないという事に気付いてしまったからだ。確かに戦争は「繰り返してはならない事」ではある。が、果たして敗戦国日本だけが「完全悪」だったのだろうか。

全ての戦争を皆一律に語る事など出来やしない。例えば中東の

国を大量殺戮兵器保持の疑いで攻めた地下資源に渴望する国際警察を語る大団に正義はあるのか。勝利は正義なのか。「勝てば官軍」その言葉すら現代にはもう当てはまらないような気がする。そもそも昨今の世界規模の戦争には勝ち負けははっきりあるのだろうか。利権や主張、互いの掲げる正義のすり合わせは遺憾が残らないような気がしてならない。

外交の延長上にあるとも言える戦争。わかりづらい時に生まれて来てしまった。わからない事だらけではっきり言い切れる事も少ないが、その中でも今を生きる我々は時代の流れを把握しながら、力に惑わされず、氾濫する情報に躍らされずにニュートラルに事象を捉らえていかなければならないと強く思う。ただ今時点でも、そしてこれからもはっきり言い切れる答えは一つだけある。「平和がいい! わかりやすいから!」(札幌市在住)



## 誰もが思う平和だが...

福沢 恵介



この世から戦争というむごい行為が無くなれば良い、平和な世界を作ろう、どうすれば良いのだろう、誰もが思う事だ。

この答えを我々人間はまだ見つけていない。

というより戦後はまだ無いと思う節さえある。

ヒントは争いを解決する手段として暴力を使わないというルールが個人レベルで定着している事の延長線上で考える方法だ。

しかし経済格差、民族問題、宗教問題など諸問題を解決しないがぎり、理想は絵に書いた餅になってしまうのが事実なのだ。

「窮鼠猫を囓む」、「先制は最大の防御」、それぞれに正義を振りかざし、我々も時にはうまく使い分けながら時代は進んでいく。

60年前、世界の権益を分け合ったもの同士の駆け引きの狭間で踊らされる愚かな人間にだけはなりたくないと思う。

もう少し世界の富が分配され、同じ環境とレベルが広がるまで暫くは寝て待つとしよう。

(ミュージシャン)

## アメリカ一国主義は危険

山元 サダ

思い出すのはやっぱり食糧難の事です。父親が早く亡くなって、母のもとに子供6人がいました。母は服を売って野菜と取り替えたりしていました。お米を食べることはめったにありませんでした。

開戦は女学校に入った年。英語の授業はそのうち無くなりました。授業よりも援農の時間ばかりでした。同級生も徴収され、優秀な人たちがたくさん無駄死にしていきました。いま生きていたら、と思うと、悔しい気持ちでいっぱいになります。

現在の国際情勢を考えると、自分の国は自分で守れる国になってほしいと思います。そのために、もう少し強い意識を持ってほしい。そして、国連にもっと強くなってほしい。アメリカ一国主義は、世界の平和を考えるととても危険に思えます。

戦後60年ということですが、幸せな子供時代から、戦争で悲惨な青春時代、戦後の大変な時代、そしてバブルの時代と、つくづく昭和を生きてきたと思います。(札幌市在住)

## このまま平和な国であってほしい

佐藤 恵子

私は昭和18年生まれです。だから、戦争のはっきりした記憶はありません。食べる物に困ったことは憶えています。ただ、岩内の浜なので、魚にだけは事欠きませんでした。

第二次世界大戦は、それまで日本がしてきたことのしっぺ返しだったのでしょうか。ツケが回ったのだと思っています。争い事を起こして、大勢の人が亡くなって、ほんとうに愚かなことです。そのことを考えると、腹立たしくなります。

それでも戦後60年間、平和を守ってきたことは日本人として誇りに思います。やっぱり憲法に守られてきたのだと思っています。それから、アメリカにも守ってもらわなくてはならない。身内にも自衛隊に入隊している子がいます。今の日本のことを考えると、戦争を防ぐためには、そういうこともある程度仕方がないことだと思えます。

戦争してもいいことはなんにもない。戦争中もその後もです。友達のお父さんも、復員してからほんとうに苦労していました。

ともかく、このまま平和な国であってほしい。この歳になって戦争になるなんてことだけは、ほんとうにいやですから。(小樽市在住)

## 憲法の大切さを考える

関根 富男

お国のために役立とうと、霞ヶ浦の予科練に志願した。特攻隊だった。海岸近くにきた船に体当たりする自爆機だ。昭和20年5月に病気になって郷里に戻ったが、その後すぐ基地は爆撃されて跡形もなくなった。

当時の兵器のことは多少知っている。しかし、今の兵器がどんなものが想像がつかない。今どんな戦争をしているのか。自分自身は、どうして戦争が始まって、どうして終わったのかも分からない。ラジオから流れることだけが真実だった。それを信じるしかなかった。

憲法がいかに大事か、ということを考える。今の日本が中立でいられるのも、平和でいられるのも憲法のおかげだ。昔も憲法はあったが、それを守らない人たちが戦争を起こした。

戦争は愚かなことだ。今もテレビなどで難民を見ると、目を伏せたくなる。食糧難に苦しんだ当時の自分たちが重なる。国家に翻弄されるのは二度とイヤだ。(札幌市在住)



# 報告 中越ボランティアを終えて 自立・地域・自治へのサポート



地震の爪跡が残る  
現地



救援物資を運ぶ  
連合ボランティア

10月23日新潟県中越地方を震度7の地震が襲い、長岡市などで10万人が避難。死者も40名を数えましたが、連合北海道は、過去の南西沖・奥尻島での地震災害、台風10号の日高管内被災などに際し、連合本部、構成組織、地方連合から、物心両面の支援を受けたことに報いるため、義援金カンパとボランティアの派遣を産別・地域に要請し、11月28日から4期にわたって合計106名のボランティアを現地に派遣しました。ボランティアは一般からも募集したところ、定員20名に50名を超える応募をいただきました。

連合北海道のボランティアは、長岡市や川口町で数カ所の避難所と物資センターの管理運営を任せられました。ここの体制は当然ながら24時間でしたので、1週間仮眠をとりながらのボランティアは、まさに過酷なものとなりました。しかし、派遣された方々は、身体をこわすこともなく、この激務を順調にこなし、住民や行政から高い評価を得ました。

連合北海道としては初めてのボランティア派遣でしたが、様々に多くのことを学びました。その一つは、震災直後ではなかったこともあって、復興期に向かう現地のボランティアは、「あえ

て手を出さないボランティアもある」ことです。“せっかくだけに行ったのに”とは思いますが、私たちのボランティアには限度があります。“自立・地域・自治”を取り戻す住民自身の活動を周辺で支えることも重要です。二つめは、まさに「人ごとではない」ことを痛感させられました。“もし”“万一”の場合に備えて、行政（その従事者もおそらく被害者の一人です）だけでなく、ボランティアの派遣と受け入れに体制をいつでも取れるような習熟・訓練が必要です。

同時に、この取り組みのなかで、「自己満足ボランティア」もあることを知りました。ボランティアは「何かをしてあげる」ものではなく、住民のなかにそれまであった「生活と地域のつながり、個人の尊厳を再度確立」するためのお手伝いであることを肝に銘じていかなければなりません。

ともあれ、産別や地域、さらに一般から参加された皆さんと、それを支えてくださった、職場・地域の皆さん、全ての皆さんに深く感謝申し上げます。そして、中越地震をはじめ、道内でも多くの方が天災の被害に遭いましたが、その方々の完全復興をお祈りします。



「ボランティア応援の  
みなさんありがとう」  
の横断幕が



連合ボランティア  
第三陣

れんごうMONTHLY **新春** プレゼント **登別万世閣にペアでご招待**

抽選で1組の方に **登別万世閣 ペア2名様1泊ご招待**

〈応募方法〉 「新春プレゼント希望」と明記し、以下の点をお書き添えの上、連合北海道HP上からE-MAILでご応募ください。  
・お名前・ご住所・電話番号・所属組合名 <http://www.rengo-hokkaido.gr.jp>

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしく願い申し上げます。

**ふれ愛バンク  
ろうきん**

北海道労働金庫

理事長  
船水 博

〒060-0001  
札幌市中央区北1条西5丁目  
TEL(011)271-2101

選ぶ安心。充実プラン。

**新こくみん共済  
マイカー共済**

**全労済** 北海道  
北海道労働者共済生活協同組合  
〒060-0001  
札幌市中央区北1条西4丁目  
大和りそなビル8F  
TEL(011)241-3511

理事長  
古川 隆之

住まいのご相談は  
住宅生協へ

**北海道住宅生協**

理事長  
桐井 住男

〒060-0034  
札幌市中央区北4条東2丁目  
TEL(011)221-3354

働く人の健康を  
守ります。

**札幌緑愛病院**

北海道医療生活協同組合

理事長 鈴木 豊  
副理事長 小野 弘也

〒004-0861  
札幌市清田区北野1条1丁目  
TEL(011)883-0121

**北海道労働者  
福祉協議会**

理事長  
笠井 正行

〒060-0004  
札幌市中央区北4条西12丁目  
ほくろうビル5F  
TEL(011)251-7560